

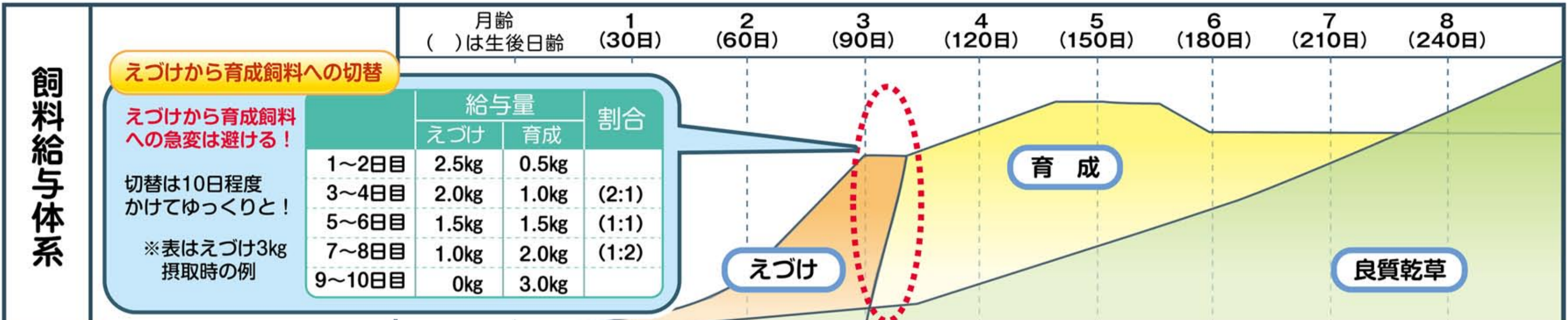
# あいら子牛育成飼養管理マニュアル

～ 生後3か月が勝負、前半濃厚飼料、後半良質乾草多給で、骨格と腹づくりを!! ～

◎出荷目標 去勢 日齢260日 体高116cm 体重290kg 雌 日齢260日 体高113cm 体重265kg

あいら子牛育成マニュアルに取り組んで商品性の高い子牛を作りましょう!!

後半良質乾草多給で購買者へスムーズなバトンタッチ!!



濃厚飼料	子牛ほほえみえづけ・げんき君 など 90日間はタンパク質の多いえづけ飼料給与	切替	子牛あゆみ・子牛ほほえみ など
粗飼料 (細断)	・良質な自給乾草 (イタリアンの出穂期～開花期) ・バミューダヘイ, チモシーなどの利用 ・イタリアンのサイレージはできるだけ低水分とし, 購入乾草などと混合して給与		

月齢	月齢(日齢)										
	生時(0)	1(30)	2(60)	3(90)	4(120)	5(150)	6(180)	7(210)	8(240)	出荷目標(260)	
去勢・雌/給与飼料	濃厚飼料は徐々に4.0kgに減らし, 4.0kgを維持										
去勢	えづけ飼料 1日当たり給与量の目安(kg)	0.2	1.0	3.0	4.0	4.5	4.0	4.0	4.0	4.0	
	育成用飼料				1.3	2.0	3.4	3.8	4.5	5.0	
	良質乾草	0.02	0.1	0.3	1.3	2.0	3.4	3.8	4.5	5.0	
	体高の目安(cm)	72	79	86	92	97	102	106	110	114	116
	体重の目安(kg)	32	53	77	108	138	168	201	234	267	290
雌	えづけ飼料 1日当たり給与量の目安(kg)	0.2	1.0	2.8	3.6	4.0	3.5	3.5	3.5	3.5	
	育成用飼料				1.2	1.9	3.1	3.4	4.0	4.5	
	良質乾草	0.02	0.1	0.3	1.2	1.9	3.1	3.4	4.0	4.5	
	体高の目安(cm)	69	77	84	90	95	100	104	108	111	113
	体重の目安(kg)	30	48	72	98	125	155	185	215	245	265

<p><b>3か月齢まではえづけ飼料重視</b></p> <p>えづけ飼料と乾草は9:1で給与</p> <p>えづけ飼料で子牛の発育と第1胃の絨毛の発達</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基準量を食べきったら, 割合を守って増量</li> <li>・離乳時はえづけ飼料1.0kg以上摂取が必要</li> <li>・子牛だけが入れられる別飼施設でえづけ摂取増</li> </ul>	<p><b>5か月齢は育成飼料を最大給与</b></p> <p>4～5か月齢は育成飼料と乾草7:3で給与</p> <p>5か月齢は骨格が最も発達する時期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・えづけから育成への切替は10日程度</li> <li>・5か月齢は濃厚飼料給与量のピーク期</li> <li>・濃厚飼料ピーク量食べきったら乾草増量</li> </ul>	<p><b>6か月齢以降は良質乾草多給</b></p> <p>6か月齢以降は濃厚飼料を制限良質乾草を多給</p> <p>骨格のできた後は, 乾草多給による胃袋づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乾草は目安量を食べきったら増量し, 早く出荷時の目安量以上を給与</li> <li>・粗飼料は良質な乾草主体</li> </ul>
--	--	--

**制限ほ乳の実施**

生後14日目頃から, ほ乳回数を1日朝夕2回(1回のほ乳時間15分程度)に制限

えづけ摂取量を高め, 2か月齢の離乳をスムーズにする。また, 子宮の早期回復も期待できる。

☆新鮮な水が十分飲める環境 ☆頭数に合った飼槽の長さ ☆乾草は短く切断

飼料給与量は目安です。子牛の発育状況に応じて増減して下さい。ただし給与量を増減する場合も濃厚飼料と粗飼料の給与割合を守りましょう。

濃厚飼料のみの給与割合が高くなると, 過肥や粗飼料摂取量等に影響が出るおそれがありますので, 注意しましょう。

子牛・衛生管理	月齢(日齢)									
	生時(0)	1(30)	2(60)	3(90)	4(120)	5(150)	6(180)	7(210)	8(240)	出荷目標(260)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・敷料は十分に清潔に!</li> <li>・こまめな清掃と乾燥・消毒</li> <li>・暑熱対策(夏場)</li> <li>・すきま風と保温対策(冬場)</li> <li>・踏み込み消毒槽の常設</li> <li>・牛舎出入りの記録</li> </ul> <p>こんな時には要注意!</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生後間もない白痢</li> <li>・血便</li> <li>・高熱を伴った下痢</li> <li>・急速に脱水する下痢</li> </ul> <p>すぐに獣医師に診てもらいましょう!</p>	初乳給与	制限哺育・人工哺育 2ヶ月離乳 離乳目安: えづけ1kg以上摂取			去勢(無血・靨血) 鼻通し					〈商品性向上対策〉 削蹄・手入れ
臍帯部消毒	子牛だけが入れられる別飼施設での管理				五種混・ヘモ予防注射					
下痢予防	線虫性下痢予防:(例)アイボメクトピカルを生後2週間・2か月・4か月(塗布)									
	コクシジウム予防(例)バイコックス※を生後14～30日をめぐりに経口投与(3か月齢以降は投与不可)									
	※バイコックスなどの要指示薬の使用にあたっては, 担当獣医師に相談しましょう!									

## あいら農業協同組合・肉用牛振興協議会始良支部